

WITHコロナ 「検査と隔離」で感染を防ごう



7月に入り、東京をはじめ感染者が増えてきました。経済活動を制限して社会にダメージを与えることを避けるには、徹底的に検査と感染者の隔離を行って、感染拡大を防ぐしかありません。

医師が必要と認めたときに行う「治療のための検査」だけでなく、感染者を早く見つけるために「感染リスクの高い集団への積極的検査」を求めます。



検査の拡大を

高橋は6月17日、神戸市のコロナ対策二次補正予算に対して質疑しました。神戸市が医師会と協力してPCRセンターを作り、保健所を介さずに医師の判断のみで受けられる検査が始まったことを評価。さらに1日20件の検査では少ないので、PCRセンターや発熱外来を増やすように求めました。しかし神戸市は「現状の検査体制で十分」と回答。

現在WHO(世界保健機関)は、発症前後の感染力が一番強いこと、無症状の感染者のほうが多いことを認めています。高橋は、病院の入院患者はもちろん、医療従事者や介護施設などの職員は、症状がなくても検査を行って、感染者を早期に発見する体制も求めています。



医療提供体制の充実を

神戸市は10月までに、重症者向けのコロナ専門病棟を中央市民病院に建設し、全体では重症者39床、中等症者81床、軽症・無症状300床の体制を作るとしています。高橋は、つなぐ会派が要求し、人工透析の患者さんが切望した「人工透析室もある重症者向けコロナ専門病棟」の建設を評価します。

さらに、中等症の患者が増えたときに専門病棟を増設するよう求めましたが、神戸市は「民間病院に助成するのでコロナ専門病棟は増設しない」との回答にとどまっています。神戸市に公的な責任を求めてまいります。

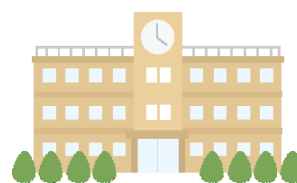
《西区の精神病院》

神出病院患者虐待で陳情採択
神戸市は虐待を防げる実地調査を

6月18日の「福祉環境委員会」に、神戸市精神障害者家族連合会会長さんから陳情が出され全委員の賛成で採択されました。陳情の趣旨は「精神病院

内は閉鎖的で、神出病院のような虐待・暴行・身体拘束は氷山の一角である。神戸市は指導監査のみならず不定期の査察を行い、実態を調査すること」です。この事件は、7月2日のNHK番組「バリバラ」で特集が組まれ、全国的に注目されています。高橋は、障がい者・家族・弁護士などが定期的に精神病院を訪問して患者の相談にのる体制(ピアカウンセリング)を作り、閉鎖病棟に外部の目が入るよう求めてまいります。

《学校再開》

高校入試の出題範囲や
小中学校の学習内容の見直しを

6月15日から学校の通常授業が始まりました。神戸市は、臨時休業に伴う219時間の授業時数について、1日の授業時間を増やしたり、行事を見直して確保すると言っています。しかし、勉強は、知識を詰め込めばよいということではありません。子どもたちの学ぶ意欲を育て、考えさせる余裕も必要です。高校入試の出題範囲を狭めることはじめ、小中学校の学習内容を取捨選択することも必要ではないでしょうか？そして高橋は、分散登校で良さを実感した「少人数学級」の実現を求めてまいります。

ポストコロナ 都会に住んで自然を楽しもう

多井畑西地区の里山保全を

中島秀男さん(里山保全連絡会)投稿

多井畑厄神の西に位置する70haの自然林と田畑からなる緑地は、ほとんどが須磨区ですが、垂水区内を流れる福田川(支流は小川)、塩屋谷川の水源地です。垂水区民にとっても大切な里山です。

4割はUR都市機構が所有していましたが、それを「セブン&アイ・クリエイトリック」に売却し、2016年より地主とともに宅地造成を計画して区画整理事業組合の結成準備を進めていました。私たち里山保全連絡会は行政に働きかけ、地域内の畑を借りることや現地フィールドワークなどの保全運動を行なって来ました。

ところが今年3月神戸市の「都市空間向上計画」によりこの区域全体が新規開発を抑制し自然環境を守る「山麓・郊外居住区域」に指定されました。このことをきっかけに「セブン&アイ・クリエイトリック」が撤退し、元の白紙に戻った状態です。いよいよ里山保全のあり方を提案していかなくてはなりません。

多井畑西地区の真ん中を流れる小川には魚もすみ、畑で美しい雄の雉(キジ)を見かけました。生物多様性に富む貴重な自然です。「福田川流域ネットワーク」の皆さん、地主さん、URとも連携しながらこの美しい里山を守りたいものです。



土砂規制条例の制定

&

メガソーラー規制条例の改定



神戸市は、6月議会で「土砂の埋立に関する不適切な処理の防止に関する条例」と「太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する条例の改正」を決めました。

高橋は、パブリックコメントで多数の市民から「放射性物質も規制の対象に」という意見が寄せられたことを取り上げて、規制を求めました。国が原発事故由来の除染土を全国の公共事業で活用しようとしているからです。神戸市は、国の法令未整備を理由に拒否しましたが、すでに行われている水質検査の項目に放射性物質を追加するように求めてまいります。

後者は、メガソーラーと言われる大規模太陽光発電の開発業者に、廃棄費用の事前積み立てや損害賠償保険への加入を求めるものです。

ポストコロナの時代には、リモートワークによって、働きながら自然を楽しむ方が増えるでしょう。神戸に残る貴重な自然を守ることが、人口減少対策になるはずで

「旗振山登山」始めました!

高橋は、神戸ヒヨコ登山会に入会し、5月下旬から「旗振山ほぼ毎日登山」を始めました。塩屋駅北側の自宅を6時に出発し、須磨浦山上遊園で開催されているラジオ体操に参加したのちに、旗振山山頂で署名し、7時半に帰宅します。ステイホームで弱った筋力を回復させるために始めましたが、ウグイスのさえずりを至近距離で聞きながら、落葉のクッションのある山道を踏みしめるのは、本当に楽しいです。そして山を愛するたくさんの方々から元気をいただいています。今後も、早朝駅立ちのない日は山に登ります。

